

読んでみよう 解いてみよう さん太のワークシート

玉野光南高（玉野市東七区）の情報科が取り組む新たな授業法が、難関検定の合格率アップにつながりました。記事を読み、質問に答えましょう。

玉野光南高情報科

グループごとに生徒交代で解説役 教え合って好成績

玉野光南高（玉野市東七区）情報科は、新型コロナウイルス禍を契機に新たな授業法に取り組んでいる。生徒が交代で問題の解説役を務めつつ、互いに教え合う手法。導入初年度の3年生16人は全国工業高校長協会主催の情報技術検定1級で、これまで過半数に届かなかった合格者が75%に達して過去最高となった。（松山定道）

来年1月に受験するシステムコース2年生20人の授業。5人1組で、プリントの問題を1問ずつ担当生徒が解説する。「なんでそうなるん」「もっと詳しく説明して」。生徒同士、質問にも気兼ねがない。最後に小テストで全員が理解できたか確認。抽選で次回の担当者を決めて終わる。

授業は2年次の科目。教師による一斉授業を、2016年に生徒が手分けして映像教材を見て教え合う「ジグソー法」に変更。さらに、昨春の臨時休校以降は、自宅で予習した内容を他の生徒に解説する「反転授業」に切り替えた。

成果は予想以上。模試の平均

難関検定の合格率75%に



グループに分かれ、生徒が予習してきた内容を教え合う玉野光南高情報科の授業。16日

点は82点と、15年の55点、19年の66点、合格ライン70点を大きく上回った。合格率20%とされる難関の検定の合格者も、1、6月の2回で16人中12人に達した。

6月の検定で特に優秀な生徒をたたえる「特別表彰」を成績を伸ばすか楽しみ」と話を受けた3年佐藤匠真さん(17)は「任せることで生徒の力を引き出した。2年生がどこまで成績を伸ばすか楽しみ」と話している。

担当の岡崎則武教諭(57)は「毎回1問だけなら頑張つて予習できる。みんなで教え合う雰囲気もあり、良かった」と振り返る。

9月26日付、山陽新聞日曜ワイド

人に教えるつもりで勉強すると理解が深まるかも！



Q1



玉野光南高情報科で行っている新たな授業法を具体的に説明しましょう。

リード（第1段落）と第2段落に注目です。

Q2



新たな授業法により、どんな成果が上がりましたか。第4段落から読み取りましょう。

Q3



やる気が高まり、成績アップにつながるような授業や勉強の方法を、周りの人と一緒に考えてみましょう。

★の数は問題の難易度を表しています。